

日本経済、賃上げで消費拡大も

現在の環境下で、日本経済も輸出入のバランスのとれた伸びが当面期待される。外国人観光客の増加も続き、インバウンド消費の伸びも一段と期待できよう。

現在の景気拡張が長期間続くことを17年の東京の「桜の開花と満開日」が示唆していた。17年の開花日は3月21日で、平年より5日早かった。満開になったのは4月2日で、開花から12日目だった。平年では開花から8日目に満開になる。桜が平年より早く開花し、開花から満開までの間が長い年は、景気拡張局面が1年超にわたり長く続くことが多い。お花見をする機会も多く、英気を養うチャンスがたくさんあることを意味するのだろう。

17年9月、10月の台風が日本経済にマイナスの影響を与えたが、足元は天候が景気の下支え要因になりそうだ。「ラニーニャ現象」が6年ぶりに発生した。ラニーニャ現象が発生すると、日本では冬型の気圧配置が強まり、寒い冬になる傾向がある。大雪は懸念材料だが、冬物商品が売れて消費にプラスに働く傾向がある。

緩やかなテンポながらも息の長い景気拡張が続く中、雇用環境が着実に改善している。有効求人倍率は上昇基調を続け17年10月には1.55倍と、74年1月の1.64倍以来43年9カ月ぶりの高水準になった。

完全失業率は17年6月以降2.8%だが、小数点第2位まで見ると8月から10月まで3カ月連続で2.7%台後半で推移していて、先行きの賃金上昇につながるとみられる。

18年の春闘で3%の賃上げが実現し、個人消費増加につながることを期待したい局面だ。